



2019-07

## ヒト

### ① 《加古川観光大使》

加古川市の御出身、またはゆかりのある方々に、加古川市をPRして頂くため、加古川観光協会が任命をしています。現在は、下記の皆様が加古川観光大使として活躍をしています。

- |                            |            |              |          |      |
|----------------------------|------------|--------------|----------|------|
| 【俳優】                       | ジョーナカムラ    | 【講談師】        | 旭堂 南海    |      |
| 【棋士】                       | 久保 利明      | 井上 慶太        | 稲葉 陽     | 船江恒平 |
| 【弁護士】                      | 住田 裕子      | 【映画監督】       | 松下 俊文    |      |
| 【歌手】                       | 菅原 洋一      | 【ラジオパーソナリティ】 | 谷 五郎     |      |
| 【北京オリンピック日本代表・スポーツコメンテーター】 | 小林 祐梨子     |              |          |      |
| 【サッカー元日本代表】                | 三都主 アレサンドロ | 【プロゴルファー】    | ささき しょうこ |      |
| 【お笑い芸人】                    | 陣内 智則      | たけだバーベキュー    |          |      |

## モノ

### ② 《綿花》

加古川市のある播州地方は、江戸時代には良質な播州木綿の産地でした。明治時代以降、外国産に押されて一度は姿を消しました。しかし平成23（2011）年から、播州木綿を復活させ、綿花から製品の製造までを行い、将来、環境や健康など現代に合致する特徴を持ったコットン産業の確立を目指す、KACOTTONプロジェクトが始まりました。現在、加古川産の木綿で加古川が産地となっている靴下などを生産して販売をしています。

### ③ 《国包建具（くにかねたてぐ）》

かつて加古川は、上流で切り出される木材の運搬に利用されていました。その木材を使う建具職人が集まった国包のまちから生み出される精巧な建具は、兵庫県の特産品となっています。現在も100人近い職人が伝統の技を受け継いでいます。

## イベント

### ④ 《加古川ツーデーマーチ》

平成2（1990）年の加古川市政40周年を記念して始まりました。毎年11月の第2週の週末の土日に開催されます。ツーデーの名の通り2日間にわたって開催、複数のコースがあり、自分の脚力を考え参加することが可能です。

## ⑤ 《レガッタ》

加古川を代表するスポーツといえばレガッタ。加古川大堰でせき止められた水面を利用したコースは、日本有数。上荘町には加古川漕艇センターも整備され、夏のシーズンには全国の大学や企業の選手が集まり、日夜練習に明け暮れています。公式試合の他、市民レガッタが開催されるなど、市民にも親しまれるスポーツとなっています。

## ⑥ 《かこがわ学検定・かこがわ学講座・Kako-Style2》

毎年1回開催され、加古川市内における歴史や文化、自然、産業についての知識を問ういわゆるご当地検定です。基本テキストとして、「Kako-Style2」を用います。初級、中級、上級に分けられ、毎年少しずつレベルアップすることが可能です。検定に合格すると、晴れて「かこがわ人」として認定され、認定証が交付されます。さらに、かこがわ学検定に先立ち、毎週1度かこがわ学講座が開催されており、中には「植田一探検隊」など人気シリーズも。



### 場所

## ⑦ 《意外と知らない歴史遺産》

加古川観光協会によると、加古川市内には、多くの人が知らない歴史的な資源があるとされています。以下はその一部ですが、この中から地域資源を選ぶことが可能です。

### 【春日神社】

公園内にあるこの神社は、文治2（1186）年ごろ、時の雁南庄（がんなんしょう）の領主、糟屋有季が奈良本宮の春日大社から分霊を迎えて建立しました。加古川城主糟屋武則は有季の子孫です。境内には赤い壁が印象的な丸亀神社（通称「赤壁さん」）があります。この赤壁さんには化猫話が伝えられており、映画化もされました。

### 【称名寺】

真言宗の寺院で、本尊は阿弥陀如来です。寺の付近一帯は加古川城跡です。天正5年（1577）羽柴秀吉が播磨の諸城主を集め、毛利氏討伐の軍議を行いました。（加古川評定）当時の城主糟屋助右衛門は秀吉について小姓頭となり、賤ヶ嶽七本槍（しずがたけしちほんやり）の一人として武名をあげました。また、境内には他人が隣れんで建てた南北朝時代の7人の武者の七騎供養塔があります。

### 【泊神社】

神代に伊勢神宮の御神体の一つである御鏡がここに泊まり着いたことから泊神社が起こったといわれています。祭神は、天照大神・少彦名神（すくなひこのかみ）・国懸大神（くにかかすみのおおかみ）です。現在の社殿は、承応2（1653）年宮本武蔵の養子、宮本伊織が改築した時のものといわれています。一歩足を踏み入ると境内は広く、南北朝時代の石弾城（いしはじきじょう）の石垣と思われるものや宮本伊織寄贈の花崗岩製の灯籠、市指定文化財の36歌仙図絵馬が残っています。

### 【浜の宮公園】

昔の加古の松原で、市の木「黒松」が群生する公園です。かつて陸軍加古川飛行場と陸軍航空通信学校尾上教育隊があったことから、浜の宮公園内にも多数の兵舎が建てられました。公園の中には、今でも門柱や基礎などの遺構が保存されています。

### 【横蔵寺】

曹洞宗の寺院で、本尊は釈迦牟尼仏です。播磨西国三十三カ所観世音霊場めぐりの第29番札所です。十一面千手千眼観音は、鎌倉時代の仏師、運慶・湛慶父子の合作と言われている秘仏で、25年毎の開帳です。像の半身を互いに持ち、まだ見ぬ父と息子が一目会いたいと旅に出た運慶と湛慶。偶然出会えて、互いの半身像を合わせたところ、見事に一体の千手観音になったと伝えられています。境内には手入れが行き届いており、門前には日本庭園があります。

### 【平木橋】

花崗岩のアーチとレンガを組み合わせた水路橋で、大正4年（1915）年に神戸市北区の淡河川と山田から農業用水を引く疎水事業の一環として建造されました。平成21年に東播磨南北道路建設のため、現在の場所に移築されました。

### 【神吉の常楽寺（神吉城跡）】

浄土宗の寺院で、本尊は阿弥陀如来です。ここはもともと神吉城があったところ。本堂など4棟の建物が平成19年7月、国の登録文化財となっています。境内には、神吉城主だった神吉頼定のお墓があります。春のお花見の頃には、見事なしだれ桜が、参拝者の目を楽しませてくれます。高台になっているため、季節によっては夕日をきれいに見ることができます。

### 【志方の城山（中道子山）ハイキングコース】

志方町の東の端に位置し、中世の城跡があります。室町時代に赤松一族が築き、約170年間続いた東播磨で有数の城跡です。軍用金埋蔵にまつわる歌や、敵の侵入を防ぐ目的で山腹に竹の皮を敷き詰めたが火を放たれ、兵糧米をまいて鎮火に努めたものの、落城に至ったという伝説が残っています。登山道は整備され、頂上からは北に七ツ池、東に権現ダム、西に高御位山、南は播磨灘まで見渡せる絶景です。

### 【升田山ハイキングコース】

東端の加古川に面したところに、自然の石段があります。「播磨国風土記」に、「斗形山（ますがたやま）という。石橋あり。伝えて言う、上古の時、この橋天に至り、八十人衆、上り下り往来。故、八十橋という。含芸（かきむ）の里。」という記述があり、この石の階段を80人の神が、天と地を行き来していたと言われています。ここへは短時間で登ることができ、頂上の岩場からは加古川を眼下に眺め、加古川市街や遠く明石海峡大橋まで望むことができます。また、平荘湖や高御位山などを望み、山並に沈む美しい夕日を見ることができます。



## ⑧ 《加古川駅南子育てプラザ＋東加古川子育てプラザ》

2つの子育てプラザは、総合的に市民の子育てを応援する市の施設として開設されたものです。加古川駅南子育てプラザはヤマトヤシキ7階に、東加古川子育てプラザは東加古川駅の近くにあり、いずれも乳幼児を含む就学前の子供とその親が気軽に過ごすことができます。そして、保護者同士の交流を踏まえての仲間づくり、子育てサークルの指導、そして育児相談も可能な施設です。現在はNPO法人子育てサポート☆きらりingによって運営されています。

## ⑨ 《加古川河川敷緑地》

加古川を代表する河川公園で、スポーツ、散策、バーベキューなど、多くの市民の方に利用されています。休日になると住民のみならず、各種スポーツ愛好家などに多く利用されています。もちろん河川敷の利用法は様々。子どもが加古川水面での水切り遊びや芝滑りに興じることを見ることができるともありません。

## ⑩ 《旧国鉄高砂線＋別府鉄道》

大正2（1913）年開業の旧国鉄高砂線は、加古川駅から高砂駅、さらにその先の高砂港までを結んでおり、沿岸の工場の製品や原料を運ぶ貨物輸送も担った路線でした。しかしながらモータリゼーションの中で、貨物輸送はトラックに移り、旅客も自動車移動が中心となり、昭和59（1984）年に廃止されました。

別府鉄道は、大正10（1921）年から、昭和59（1984）年まで存在した鉄道です。もともとは、加古川市別府の多木肥料（現多木化学）の肥料を輸送するための鉄道で、野口駅で国鉄の高砂線、土山駅で山陽本線とも接続していました。新幹線が高速走行を実現した時代に、昭和初期の気動車がトコトコ走る姿との対比も見ものでした。

廃線後、高砂線野口駅跡が整備されたり、別府鉄道の路線跡地は歩行者・自転車の専用道の「松風こみち」へ変身したりと、今なお路線の記憶を留めています。

## ⑪ 《いなみ野学園》

昭和44（1969）年に、全国で初めて、県による老人大学（社会教育施設）として設立されました。生涯学習の草分けとして生涯学習の提唱者、ユネスコのポール・ラングランも訪問したことがあります。現在、4年制の大学と2年制の大学院があり、およそ1,400人の高齢者が活発に学び、活動をしています。



## ⑫ 《寺家町商店街と西国街道じけまち蚤の市》

寺家町商店街は、加古川駅の南、JR神戸線に沿うように東西に延びる商店街です。かつては、東播磨、北播磨地域の人々にとって、まとまった買い物のできる商店街として多くの買い物客を集めました。特に年末の大安売り期間の「誓文払い」は明治時代に始まり、期間中は東播磨全域から数万人の買い物客が訪れて賑わったといわれます。

現在は、往時のにぎわいからは程遠いものの、例えば毎月1度、日曜日に開催される西国街道じけまち蚤の市の取組みや、ホームページでのネット販売の試みなど、時代とともに変わるニーズに合わせて変化をしています。

## ⑬ 《加古川中央市民病院》

加古川中央市民病院は、平成28（2016）年に旧加古川西市民病院と旧加古川東市民病院を統合して設立されました。旧加古川東市民病院は長年神鋼加古川病院として親しまれ、その後、市民病院に再編され、統合の運びとなりました。600床、32診療科を有する急性期総合病院であり、地域医療の要となります。

## 仕組み

## ⑭ 《但陽ボランティアセンター》

阪神・淡路大震災をきっかけにスタートしました。但陽信用金庫の職員がボランティア、ということで障害者や高齢者の移送サービスの他、よろず相談、認知症サポーター養成講座、地域のイベントの支援など、播磨地域全域で活躍をしています。

## ⑮ 《NPO法人シミズシーズ》

NPO（非営利活動組織）の中でも、中間支援組織とよばれる団体です。中間支援組織とは、団体や人々を他の団体と結び付けたり、人々の活動への想いを実現したりする支援を行う組織です。シーズ加古川として平成14（2002）年に設立され、その後現在の名称に変更されました。

## ⑯ 《かこがわ市民団体連絡協議会》

加古川市内で活動し、あるいは活動拠点を置く団体間の交流を深めるとともに、連携を図ることを目的として、平成16（2004）年に設立されました。登録されている団体間ではもとより、市民や企業などとも協働してよいまちづくりを目指しています。

\*登録団体については、かこがわ市民団体連絡協議会のホームページをご覧ください。登録団体に記載されている団体も地域資源として活用することが可能です。



## ⑰ 《加古川市ボランティアセンター》

市内のボランティア団体の紹介やボランティアを依頼したい人とボランティアグループのマッチング、研修活動などを手掛けています。加古川市社会福祉協議会が運営をしており、加古川市総合福祉会館の中に事務局があります。もし、災害に見舞われた場合は、ここが災害ボランティアの受入や手配のセンターを努めることになっています。

\*登録団体については、加古川市ボランティアセンターのホームページをご覧ください。登録団体に記載されている団体も地域資源として活用することが可能です。

## ⑱ 《加古川市協働のまちづくり推進事業補助金》

町内会・自治会、ボランティア団体などの多様な主体が協働して進めるまちづくり活動に対し、加古川市が助成を行います。具体的には、団体が、主体的に取り組み、公益に資する事業を提案し、審査を経て経費の一部を補助します。

## ⑲ 《加古川市内の空き家問題とその対策》

空き家問題は加古川市内でも深刻です。平成25（2013）年の空き家率は10.1%（11,600戸）ですが、年々増加することが予想されています。平成29（2017）年には「加古川市空家等の適正管理に関する条例」を制定し、計画を策定するなど、空き家が管理不能になり、近隣や地域の良好な生活環境を脅かすことが無いように所有者への働きかけをしています。空き家を除却するだけでなく、活用することも望まれ、空き家活用の啓発活動を行う他、空き家バンクも設置、空き家を利用したい人と、空き家の管理に困る人との橋渡しもしています。

\*現在の空き家そのものを有効な地域資源として活用することが可能です。

## ⑳ 《ウェルネス都市 加古川・棋士のまち加古川》

加古川市の政策目標を簡単な言葉であらわしたり、加古川の特色を印象深いフレーズでアピールしていくことはとても大切です。ここでは「ウェルネス都市 加古川」と「棋士のまち加古川」を紹介します。

「ウェルネス都市 加古川」

平成12（2000）年に加古川市が、市民の健康志向の高まりと明るく健全な社会環境づくりが求められる中、市民のウェルネスライフを積極的に支援していくため、「ウェルネス都市宣言」を行ったもので、「ひと」「まち」「自然」が調和した都市の実現を掲げています。

「棋士のまち加古川」

加古川観光大使の項でもふれた通り、加古川市は、市ゆかりのプロ棋士5名が活躍するなど、棋士のまちでもあります。将棋の対決を盛んに誘致するなど全国発信にも努めています。

